

校長室から

そのままのキミがすき

木村裕一

そのままのキミがすき

たとえば キミが

寝起きのぐしゃぐしゃな頭でも

泣いた後の真っ赤にはれた目をしてても

すっぴんでしわくちゃなシャツを着てても

穴のあいたくつ下や汚れたクツをはいてても

すてきなアクセサリーをつけてなくても

いつもドジばかりしてても

漢字が書けなくても

計算が遅くても

記憶力が悪くても

敬語を知らなくても

八十歳すぎても

わがままでも

それがキミなら

そのままのキミでいいんだよ

キミがすきだから

(一部省略)

「命の大切さについて考える日」の取組から

5月8日(木)、昨年廿日市市内中学生の自死を受けて、今年度から亡くなった日を「命の大切さについて考える日」として、市内幼稚園・小学校・中学校が統一して取り組むことになりました。本校では、やまばとさんに「いのち」に関わる絵本を読んでいただきました。昼には集会をもって、校長の講話に続いて、児童会(5・6年生)が上に掲載した詩を群読で命の大切さについて訴えてくれました。とても心にしみる詩でした。聞いていた児童もじっとして聞いていました。

集会後に、命に関する川柳を作りましたので一部を紹介します。いじめは絶対してはいけないということを肝に銘じてほしいと願っています。

いのちはね ひとつしかない たいせつに(2年生)
ともだちが こまっていたら たすけよう(2年生)
ありがとう 長生きしてね おばあちゃん(4年生)
かがやこう みんなの命 輪になって(5年生)
いいんだよ そのままのキミが スキだから(6年生)